

	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	評価指標 《新》は、新たに生徒アンケートに加えるもの	実績値	目標値	評価 (自己評価の結果)	改善策																	
					令和4年度	令和5年度																			
知	主体的に学ぶ生徒の育成【学力】	基礎・基本の確実な定着を図る。	・継続的・計画的な家庭学習 ・定期的な確認テスト	・確認テストの合格ライン（7割）以上の生徒の割合	76.5% (国 77.8%, 数 90.0%, 英 61.6%)	5教科 70%																			
			・個別の指導計画を活用した個別指導	・江田島市学力調査の下位5人の平均正答率	令和5年1月（下位5名の平均の全国比） ※「2年」の太字は前年度以上の結果 <table border="1"> <tr><td></td><td>国</td><td>社</td><td>数</td><td>理</td><td>英</td></tr> <tr><td>2年</td><td>63.7</td><td><b>76.5</b></td><td><b>57.6</b></td><td>46.5</td><td>48.3</td></tr> <tr><td>1年</td><td>69.1</td><td>72.7</td><td>31.3</td><td>33.4</td><td>42.4</td></tr> </table> ※「2年」の太字は前年度以上の結果		国	社	数	理	英	2年	63.7	<b>76.5</b>	<b>57.6</b>	46.5	48.3	1年	69.1	72.7	31.3	33.4	42.4	全国比を前年度以上に する	
			国	社	数	理	英																		
2年	63.7	<b>76.5</b>	<b>57.6</b>	46.5	48.3																				
1年	69.1	72.7	31.3	33.4	42.4																				
思考力, 判断力, 表現力を鍛える。	・思考が深まる授業づくりの推進【発問の工夫】	・江田島市学力調査（5教科）における思考力, 判断力, 表現力を問う問題の正答率	令和5年1月（思考・判断・表現 正答率） <table border="1"> <tr><td></td><td>国</td><td>社</td><td>数</td><td>理</td><td>英</td></tr> <tr><td>2年</td><td>58.8 (99)</td><td><b>52.0</b> (123)</td><td><b>37.8</b> (125)</td><td><b>46.2</b> (102)</td><td>40.5 (93)</td></tr> <tr><td>1年</td><td><b>59.1</b> (105)</td><td><b>68.2</b> (116)</td><td><b>40.6</b> (117)</td><td>51.1 (97)</td><td><b>47.7</b> (116)</td></tr> </table> ※（ ）は全国比を表す ※※太字は全国比100以上の結果		国	社	数	理	英	2年	58.8 (99)	<b>52.0</b> (123)	<b>37.8</b> (125)	<b>46.2</b> (102)	40.5 (93)	1年	<b>59.1</b> (105)	<b>68.2</b> (116)	<b>40.6</b> (117)	51.1 (97)	<b>47.7</b> (116)	各学年の全国比を105以上にする			
	国	社	数	理	英																				
2年	58.8 (99)	<b>52.0</b> (123)	<b>37.8</b> (125)	<b>46.2</b> (102)	40.5 (93)																				
1年	<b>59.1</b> (105)	<b>68.2</b> (116)	<b>40.6</b> (117)	51.1 (97)	<b>47.7</b> (116)																				
徳	自己実現と社会貢献を図る基礎の育成【規律】 【自己実現】 【貢献】	行動三原則の徹底を図る。 (時を守り, 場を清め, 礼を正す)	・掃除開始の時間厳守と活動に見通しをもたせる指導の充実 ・あいさつ, 返事の指導の徹底	・「自ら時間いっぱい集中して掃除をした」と感じる生徒の割合 ・「自ら進んで挨拶をしている」生徒の割合	92.9% 92.9%	95% 95%																			
		不登校生徒への取組を充実させる。	・担当教員を中心とした組織的な取組の充実 ・教育相談体制の充実	・不登校生徒数	6人	4人																			
		貢献活動をとおして自己有用感を醸成する。	・生徒会を中心としたボランティア活動の充実 ・地域活性化のための取組の充実	・「貢献活動に参加してよかった」と感じる生徒の割合 ・「自分のよさは周りから認められている」と感じる生徒の割合《新》	82.1% —	85% 70%																			
		体力の向上と生活習慣の改善【運動習慣・体力】	・部長会の充実と部活動の活性化 ・保健体育委員会を中心とした体育的活動の充実	・体力・運動能力調査「県平均以上」の種目数割合 ・「運動を週3日以上行う」生徒の割合	3年女子 87.5%, 2年男子と1年女子 25% 75.0%	70% 80%																			
信頼される学校	「公開性」	積極的な情報発信を図る。	・学校だより, 学級通信, HP等により取組の目指す姿や結果をタイムリーに発信	・「学校の様子がよくわかる」と感じる保護者の割合	92.7%	95%																			
	「学校組織マネジメント」の確立	「働き方改革」を推進する。	・校務分掌の平準化 ・各活動の見直しと早期の起案 ・部活動休養日の完全実施	・時間外勤務月 80時間以上の職員数 ・「生徒と向き合える時間が確保できている」と感じる職員の割合	3人/15人 87.5%	0人 90%																			